

25年漁期 まいわし漁獲可能量(TAC)期中改定案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	23年	24年	25年当初	25年再評価	漁獲シナリオ(管理基準)	23年	24年	25年当初	25年改定案	
まいわし	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持若しくは増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>												
	太平洋	中位	増加	14.0	23.6 (28.8)	32.2	29.2	親魚量の維持(②)					
	対馬暖流	中位	増加	(参考) (1.1)	0.9 (3.8)	3.8	9.6	親魚量の維持(②)					
合計			—	24.5 (32.6)	36.0	38.8			15.1	24.5 (32.6)	36.0	38.8	

【25年TAC設定の考え方】
太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については「親魚量の維持(32.2万トン)」の漁獲シナリオ、対馬暖流系群については「親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(3.8万トン)」の漁獲シナリオとし、これらの合計値に基づく36.0万トンをTAC数量とする。

【25年TAC期中改定の考え方】
当初TAC設定のベースとしたABCの再評価の結果、太平洋系群は当初と同じ漁獲シナリオ「②親魚量の維持」で29.2万トンとなる。対馬暖流系群は、再評価により2012年の親魚量がBlimitを超え、資源水準が低位から中位に移ったことから、漁獲シナリオは当初評価における「③親魚量の増大(10年でBlimitへの回復)」ではなく、再評価後の「②親魚量の維持(9.6万トン)」が取り得る。これらを合わせた数量38.8万トンにTAC数量を改定する。

注) 下段()書きについては、ABClimit欄は再評価後の数量、TAC欄は期中改定後の数量。

【資源評価結果:再評価後】

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ(管理基準)	2013年漁獲量(万トン)	2012年親魚量	Blimit	Bban
	水準	動向						
対馬暖流系群	中位	増加	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent) *② 親魚量の維持(Fmed)	6.1	11.2万トン	親魚量 10万トン	資源量 0.5万トン